

東林院と行基の関係

～行基の生涯と東林院が果たしてきた役割～

班員：藤井・白石・菖蒲・田村・西下・板東・森・矢野・山田・米田

1. 行基とはどんな人物だったのか？



行基さん

668年 飛鳥時代 現在の大阪府堺市生まれる。

奈良時代に活躍した、真言宗のお坊さん。

当時お坊さんになることはとても難しかったが、難関を見事突破！

(1年間で正式なお坊さんになれたのは4人程度だったそう)

民衆への仏教布教を朝廷に禁止された時代に、身分に関わらず多くの
人に仏教の教えを広め、人々を救おうとした。

私は、権力をもつことよりも人々の役に立ちたいと思いました。何よりもまず大切にしたのは人々の心が安らかになること。そのためには、生活が安定することが1番であると思っただけです。そして…

行ったこと

主に道路を作る・橋を架ける・堤防を作るなどのインフラ整備や土木事業。

悲田院(ひでんいん)という貧しい人や病気の人に食事を与えるなどして助ける施設を創設。

*行基を迫害していた朝廷も後に行基の力を認め、四国に行って技術を提供するよう命じた。



弟子です。行基さんの「民のために尽くしたい」という熱い思いに惹かれ、
たくさんの方が行基さんを慕っていました。

そして、行基さんは奈良の大仏を作ることも尽力したのです。

そして人々のネットワークは関西から四国へ広がって
いくことになります。

2. 東林院について 行基や空海との関係

東林院について

- ① 鳴門市大麻町にあり、行基が733年に開いたとされる真言宗のお寺
- ② 空海とのゆかりが深い（修行のルートが四国八十八カ所になったが・・・!）
- ③ 「種蒔き大師」「靈山寺 奥の院」とも呼ばれている



★なぜか？

空海は農業を奨励しており、食物の種を蒔き自ら畑を耕して麦や米の栽培を教えたので、空海のことを「種蒔き大師」と呼ぶ。そして、空海が、四国で修行を始める前に滞在したのが東林院であった。そのため昔は1番札所「靈山寺」の前にお参りする場所でもあったため「靈山寺 奥の院(大切な場所)」と呼ばれている。また、空海が東林院に来た証として「種蒔き大師像」を空海より授かり、それを大切に守ってきたことから東林院は「種蒔き大師」とも呼ばれている。



空海ニュース!

空海は、なんと東林院を支援していた。理由は、空海が神をまつるためのお寺「神宮寺」として東林院を利用していただけだといわれている。支援の内容は、農業復興(米・麦の種まき)、災害の調伏など。当時は東林院と神宮寺の2つのお寺が並んでいた。

④ 国指定重要文化財がある

ここで東林院クイズ

★文化財を、実際に見させてもらいました!

第1問! 私は、弥勒菩薩坐像(みろくぼさつぎぞう)といいます。国指定重要文化財です。

Q 私は何年前に作られたでしょう?

- ① 1年前 ② 500年前 ③ 900年前



A ③

東林院は今日までずっと「弥勒菩薩坐像」を守り続けています。

★他にも貴重な体験をさせていただきました！



第2問！私は弘法大師空海です。

Q 私がもっている「道具」は何でしょう？

- ①武器 ②つえ ③鈴

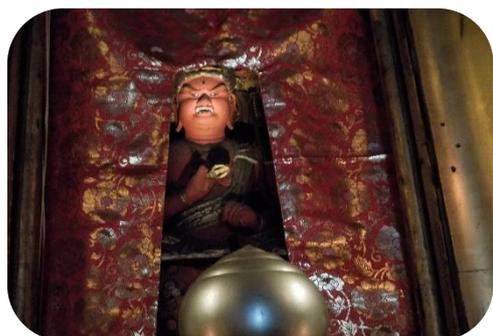
A ①

同じ物を大麻中学校の生徒に持ってもらいましたよ。



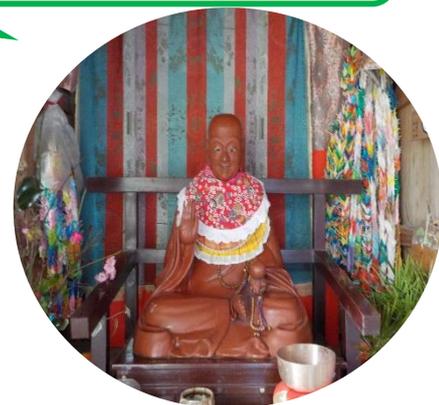
みなさん、正解できましたか？この「道具」はインドの武器の一種でした。それが仏教に取り入れられ、**煩惱(人の苦しみの原因)**を破壊する**道具**として、人々を救うために持っているのです。

⑤ ご本尊の「愛染明王」



ご本尊の「愛染明王」を、こんなに近くで拝ませてもらったり、住職さんしか入れないところに入れてもらったりして、いろんな仏具を触らせていただきました！！

学問の神様「びんずるさん」いつでもお参りに来てね！



3 三好家と東林院の関係性は？

そもそも三好家とは日本の氏族の1つ。室町時代には阿波守護細川氏の守護を務めたのち、下剋上をおこして細川氏を倒す。しかしその後、長曾我部家によって一族が滅ぼされた。それから時間が経ち、豊臣秀吉によって阿波の守護におかれたのが蜂須賀家一族だった。東林院との関係があるのは三好家。現在の徳島北高校辺りを拠点とし、祈願寺としていたのが東林院である。

4 窯まつりについて



「窯祭り」とは、毎年11月に東林院で開催されている、大谷焼の窯元さんが集まって行う陶器市である。(大麻中学校 陶芸部もコロナ禍前は毎年出展していた)なぜ、東林院で大谷焼の陶器市がひらかれているだろう？

←窯まつりの様子

- ① 陶芸の技を伝えた人のお墓が東林院にあるから
- ② 大谷焼の窯元さんに東林院の檀家さんが多かったから

1780年頃 大麻町大谷に陶芸の技術が伝えられたとされている。

人物：萬七(まんしち)さん 文右衛門さん

四国巡礼に訪れた際に陶芸の技術を伝え、それが「大谷焼」の文化として根付いていった。その方のお墓があることと、檀家さんのつながりで「窯まつり」が東林院で開催されることとなった。



萬七さん(文右衛門さん)のお墓

5 東林院が大麻町で果たしてきた役割

大麻町の人びとの心のよりどころ

「時代が進み、お寺の存在意義はうすれてきているけれど、だからこそ果たすべきことがある」 (住職さんのお言葉)



多くの人が集まりほっこりできる場所になってほしい。
そのために、イベントを開いています。

窯まつり カフェ コンサート など…



東林院の中にあるカフェ

東林院の役割は今も昔も変わらず
人々の心に寄り添い
地域の交流の場になっています。

6 調べ学習を終えて

- ◎大麻町の文化や歴史について知ろうとすらしていない自分がいたが、今回の学習を通して知ることのおもしろさが分かった。
- ◎お坊さんしか入れない場所にも行かせていただき、不思議な気持ちになった。地域の方が、自分たちのためにして下さることに感謝したいと思った。
- ◎私たちの暮らしている大麻町について深く知ることができて嬉しい。阿波っ子大使として、学んだことを伝えていきたい。
- ◎大麻町は歴史の深い素晴らしい所だと思った。こんな町に住み、学ぶことができることを誇りに思う。